

西脇市消費生活センター

☎22-3111(防災安全課内)
No.173
家族で防ごう!子どものネットトラブル

消費生活センターに寄せられる子どもの相談の多くは、インターネットに関連するものです。

■相談事例

- ・保護者に内緒でスマートフォンのオンラインゲームで高額課金していた
- ・一回だけのつもりで化粧品や健康食品を注文したが、定期購入が条件だった
- ・ウェブ広告を見て、格安の脱毛エステに申し込むつもりが高額契約になった など

■トラブルを防ぐためのアドバイス

- ①家族で話し合い、インターネット利用のルールを決めましょう
- ②子どものスマートフォンやゲーム機等におけるインターネット利用状況を把握し、クレジットカードはしっかり管理しましょう
- ③料金や契約内容、解約の条件等を確認しましょう

■子どもたちへ

- ①インターネットは家族で決めたルールを守って使いましょう
- ②クレジットカードを使うことはお金を使うことと同じです。クレジットカードは勝手に使ってははいけません



防災訓練では関係機関との連携を確認 (写真は前回の様子)。

安全・安心なまちを目指して
あの未曾有の阪神・淡路大震災から25年、四半世紀もの月日がたちました。今まで経験したことのない揺れを今でも鮮明に覚えています。翌日、西脇青年会議所のボランティアとして訪れた神戸では、あちこちで火災が発生したり電線から火花が出たり、がれきりの中での捜索活動など、かつて見たこともない光景や経験を思い出します。
西脇市は3年に一度、総合防災訓練を実施します。今回は2月9日西脇中学校で直下

型地震を想定し、陸上自衛隊や消防団など、関係する約40団体の出席を得て実施します。今回の訓練をきっかけに、多くの市民の方に防災や減災に対する意識を高めていただきたいと思います。
25年前の阪神・淡路大震災や平成16年水害などで得た経験や教訓を風化することなく、次の世代にどう継承するのか、また、異常気象による豪雨や震災にどう対処するかが、我々に課せられた課題であると思っています。
令和3年3月に完成する新しい庁舎は、災害時でも行政機能が維持でき、かつ、災害対策本部としての役割を果たすことができるように、強固な防災対策を図っており、市民交流施設は防災支援活動などにも活用できる施設として整備します。
災害に強く、安全・安心で住みよい西脇市を皆さんとともに創ってまいります。



西脇市長 片山 薫

市長からの手紙

西脇を元気に!!

73

あぐりコラム 11

西脇市では黒田庄和牛や山田錦、イチゴなど全国に誇れる地域食材が生産されており、さまざまな農業振興施策を推進しています。このコラムでは、本市の農業に関する旬な情報をお伝えします。

■問合せ 農林振興課(市役所内線322)



旬菜館では、地元産のイチゴ約5種を販売

農と食の発信拠点「北はりま旬菜館」

西脇市立北はりま農産物直売所「北はりま旬菜館」は平成23年、循環型農業の推進と地産地消、地元農家の育成を目的にオープンしました。開店当初、出荷者は試行錯誤しながら農産物を生産。同じ旬野菜等の出荷が集中しすぎたり、夕方になると商品が不足したりして、お客さまにご迷惑をお掛けすることがありました。しかし、開店以降さまざまな経験を積み、今では旬の産物を長い期間味わえるよう、計画的な生産や出荷時期を分散・調整。消費者ニーズに合わせた取り組みで、北播磨地域でも有数の商品を取り扱う農産物直売所に成長を遂げました。

北はりま旬菜館の店頭には、毎日、新鮮な地元産農産物や加工品が並んでいます。この時期、ひときわ目を引き人気があるのは、西脇市産のイチゴ。出荷が最盛期を迎えます。地元で生産された安全・安心な農産物を食べることは、農家の支援やコミュニティーの結束、生物多様性の保持など、消費者だけでなく、農家と地域の未来にもつながります。北はりま旬菜館に並ぶ地域の「旬」を楽しみませんか。



▲さめきうどん「優」での調理体験 (令和元年6月)

好きです!! にしわき わたしのふるさと

心紡いで 彩り豊かな人財の育成

～誰もがふるさとに誇りと愛着を持ち、輝いて生きる 共生社会の実現に向けて～

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

中学2年生による5日間の社会体験活動

トライやる・ウィーク受け入れ事業所を募集

「トライやる・ウィーク」は、中学2年生が多様な社会体験活動を通して感謝の心を育んだり、自律性を高めたりし、一人一人が自分なりの生き方を見つめられるように支援するものです。兵庫県で発生した大規模災害や凄惨な事件を受けて、心の教育の充実を図るために始まり、今回で23回目を迎えます。

「地域の子どもは地域で育てる」を合言葉に、働くことの尊さや厳しさ、そして、お客さまや地域の方々と触れ合うことの喜びや充実感などを教えていただける事業所を募集します。

中学生を受け入れてくださる事業所がありましたら、下記のいずれかへお問い合わせください。

◆実施期間

6月1日(月)～5日(金)
午前9時～午後3時

◆受け入れにあたって

- ・活動中、生徒は弁当を持参します
- ・生徒はトライやるワッペン(名札)を付けて活動します
- ・生徒の活動経費は申請に基づき、各学校からお支払いします

◆昨年ご協力いただいた受け入れ事業所の方の声

・短い期間だが、生徒の一日の成長が目に見えて分かった

・5日間の学びをこれからの生き方、将来への道しるべとして、少しでも生かしてくれよう

◆一次締切

2月12日(水)
締切後も随時受け付けます

◆申込み・問合せ

- ・学校教育課 (市役所内線520)
- ・西脇中学校 (☎22-2725)
- ・西脇東中学校 (☎22-3905)
- ・西脇南中学校 (☎22-3553)
- ・黒田庄中学校 (☎28-2072)

心のスケッチ

131

人権教育課コラム

遠い異国の地で外国人になつて気付いたこと

10年ほど前の話になります。私が新婚旅行の行き先として選んだ国は、トルコでした。アジアとヨーロッパの境界に位置するトルコは、多様な民族、文化、言語などが混在する多文化社会です。東西文化が融合したエキゾチックな街並みに魅了されたこと、そしてトルコが親日国であったことが決め手となりました。
イスタンブールのグランドバザールで買い物をしていたときのことで。偶然入った店の店主に、「あなたは中国人か? 韓国人か? 日本人か?」と質問されました。私が日本人であることを伝えると、店主は笑顔で、「よく来てくれました。ゆっくり見て行ってください」と私たちが温かく迎え入れ、とても親切に接客してくれました。しかし、その好意を素直に受け止められない自分がいまいました。「私が中国人だったら、韓国人だったら、店主はどう対応したのだろう」「同じように親切に接客してくれたのだろうか」直接的に差別されたわけではありませんが、何ともいえ

ない後味の悪さを感じながら帰国しました。
私たちの住む日本はどうでしょう。日本と中国、韓国との間には、難しい問題が山積しており、そのことが中国や韓国の人を見る目を複雑にしているところがあります。私たちの国においても、外国人に対して「国」で差を付けているところはないでしょうか。少子高齢化による人手不足の解消を目的に、外国人労働者の受け入れを拡大する改正出入国管理法が施行されても、うすぐ一年になります。今後、外国人と接する機会はいよいよ一層増えることが予想されます。同じ人間として、偏った価値観や情報にとらわれることなく、その人の内面を捉えることのできる人でありたいものです。
わが家の前の公園は、夕方になるとぎやかになります。企業で働く外国人技能実習生が集まり、みんなでサッカーをしているのです。異国の日本に溶け込み生活している彼らを、温かく見守っていきたいと思います。(人権教育課)